

家庭学習の手引き（家庭保管用）

新宮中学校

この「家庭学習の手引き」は、家庭での学習をより充実したものにするためのものです。各教科の先生からのアドバイスや勉強方法がまとめられています。参考にして、できることから実行してみましよう。特に「基礎編」については、全部行うつもりで取り組みましよう！そして、「応用編」にも意欲的に取り組みましよう。

国語 Ⅰ 基礎編～これだけは取り組みましよう～

- (1) 教科書の本文を声に出して音読する。(特に詩、短歌、俳句、古文)
- (2) 読めない漢字や難しい語句の意味は、辞書を引いて調べる。主語と述語をはっきりさせた短文づくりを試みる。
- (3) 指定された内容、方法で漢字の練習をする。
- (4) ワークを行い、復習する。
- (5) 生活ノート（わかば）に6行の日記をしっかりと書く。
- (6) 一日10分は本や新聞を読む習慣を身に付ける。(できない人は、土日に1時間程度)

国語 Ⅱ 応用編～もっと力を付けたい人へ～

- (1) 漢字検定に積極的に挑戦する。(言葉の学習にもなる)
- (2) 決められた漢字の宿題だけでなく、自主的に漢字の学習をする。
- (3) 新聞のコラムや社説を読み、写したり、難しい言葉を調べたり、200字程度の要約や、自分の考えを述べる練習をする。
- (4) 内容がジャンル別(説明文、古文等)に分かれている問題集を購入して解く。
- (5) 日常生活での言葉づかいを気にする習慣を付ける。(敬語、「ら」抜き言葉など)

社会 Ⅰ 基礎編～これだけは取り組みましよう～

- (1) (前回の)授業で学習した内容(範囲)の「ワーク」を行う。
- (2) 次の授業で学習する内容の教科書の本文を、1, 2回程度太字のところを意識しながら声に出して読む。
- (3) 本文を読んで、授業で知りたいこと、不思議に思うこと、質問したいこと等をふせんなどに書き出しておく。

社会 2 応用編～もっと力を付けたい人へ～

- (1) 中学3年生は、前回の授業で学習した内容（範囲）の「新研究」を行う。
- (2) （1学期から行ってきた）「ワーク」や、これまでのテスト類を繰り返し（少しずつ）行う。
- (3) 薄い参考書（要点のまとめ）を準備し、用語や地名を繰り返しノートに書く。（テスト対策）
- (4) 社会を好きになるために…どれか一つから実践してみましょう。
 - 地理 ぼんやりと地図帳をながめたり、地図帳を使って「地名さがし」をしたりする。
 - 歴史 図書室にある気に入った時代（人物）の物語を読む。
 - 公民 テレビや新聞、インターネット等のニュースに関心をもつ。

数学 1 基礎編～これだけは取り組みましょう～

- (1) 教科書を読み返し、授業で学んだ内容をその日のうちに整理する。

教科書の中には、普段の生活の中では使わない「数学的な言い回し」が多く書かれている。それに慣れるためにも、教科書やノートを見返すとよい。
- (2) 間違えた問題を解き直す。
 - ア 間違えることが前提…計算などは間違えることが前提である。大切なのは、間違えた後、解説などを見て、もう一度解き直しをすること。
 - イ 間違いは消さないで…間違えたところはそのまま残しておく。消しゴムで消すのは、もったいない！
 - ウ ワークやテストから…ワークやテストの間違った問題を見付け、どんどん解き直す。さらに「どこが」「どのように」間違えたかを書き込んでいく。

数学 2 応用編～もっと力を付けたい人へ～

- (1) 算数・数学検定に積極的に挑戦する。
- (2) ○○になったつもりで…「もし自分が先生だったら、こんな風に教えるなあ…」、「もし自分が編集者だったら、こんな参考書を作るなあ…」と考えながら、ノートまとめをしていく。分かりやすい解説も付け加えながら進めていくと GOOD!
- (3) 難しい問題にチャレンジ…教科書の章末問題やワークの問題など、少し難しい問題にチャレンジしてみよう。書店やインターネット上にも、中学校入試や高校入試などの問題がたくさんあります。探してみてもどうだろうか。
- (4) おまけ…「この公式はなぜ出来上がったのだろうか?」「この数学者の一生はどのようなものだったのだろうか?」と、調べてみるのも面白い。

理科 1 基礎編～これだけは取り組みましょう～

- (1) 復習をする。

授業で学習した内容と教科書を照らし合わせながら教科書を読み、学習した内容を復習する。

- (2) ワークは自分の力で解く。

今年度のワークは教科書に対応して問題が作られているものである。分からないところは、教科書やプリントを見てもよいので、必ず自分の力で解いてみる。解答は基本的に授業前に行う。

- (3) テストの見直し、解き直しをする。

テスト問題は習ったことの大事な部分が集約されている。解答用紙に誤答を色ペンで直すだけでなく、テスト直しの際に、実験・観察内容や計算方法などを復習し、解き直しをする。

理科 2 応用編～もっと力を付けたい人へ～

- (1) 授業プリントを訂正プリントにまとめる。(写すだけでなく、教師の解説などを書き込む)

- (2) 何度も何度も、繰り返し問題を解く。分からない問題は先生に気軽に聞く。もしくは、解答冊子の解説を熟読する。計算など、思考のあとが残るようにするとよい。

※ 理科の内容は、重要語句（単語など）、実験内容（器具の名称や使用方法、実験の注意点）、計算、説明、証明（主に記述）に分けられる。

I 重要語句（一問一答など）

II 実験内容

III 計算（まずは計算の仕方を確認し、覚える）

IV 説明、証明（主に記述）…記述で必要なキーワードを確認し、覚える。

（近年の入試傾向では、Iの問題数は少なく、IVの問題数が増えている。）

- (3) 重要語句が答えとなる問題文を、自分で作る。例えば、最初に「光合成」が答えになる問題文「植物の葉緑体で行われるはたらきは？」のように自分で作ったとする。しかし、この問題文を読み返してみても、「不十分かなと思ったら、更に付け足す。「植物の葉緑体で行われる、日光と二酸化炭素と水を使ってデンプンをつくるはたらきは？」のような自分で問題を作ることにより、記憶の中にあるキーワードが整理され、つながっていくので、よい復習になる。友達ともやってみよう。

理科の問題は、答えが同じ問題でも、言い回しが違うというだけで、難しく感じてしまうことがある。これを克服するには、様々な問題に挑戦することだ。これは、技術を身に付けるために繰り返し練習する部活動と同じである。「まとめる」ことも大切だが、何度も繰り返し「練習する」、「実践する」ことで、どんどん力が付いていく。

英語 1 基礎編～これだけは取り組みましょう～

- (1) 練習ノート1ページを確実に行う。ただし、単なる手の運動にならないように、発音を声に出しながら、つづりを覚えるつもりで書くことが、一番効果的な方法である。
- (2) 授業で行う小テストで書けなかったものを練習する。何度か書いたら、別の紙に何も見ないで書いてみて、完璧に覚えるまでひたすらこの過程を繰り返して練習する。
- (3) 授業で意味を習った教科書の本文を音読（最低5回）する。読めない単語があれば、印を付けておき、先生や友だちに聞く。「読めない」単語は書けないし、聞き取れないので音読は大切です。
- (4) 授業で習ったところのワークの問題を解く。分からなかったところには印を付けておき、テストまでに解き直して、解けるようにする。
- (5) 授業中に配られたワークシートの説明を家でも読み、問題を解き直す。テストまでにもう一度同じことをする。

英語 2 応用編～もっと力を付けたい人へ～

- (1) 教科書の本文の意味の日本語を見ながら、英文にする。書いたら教科書を見て、間違ったところを直す。これを繰り返し、本文を暗記し、書けるようにする。これが完璧にできれば、定期テストはこわくない。
- (2) ワークをして、間違えたところ、分からなかったところを何度も解き直す。時間をおいて再度挑戦すること。定期テストはワークからの問題が多いので、大変有効。
- (3) 毎日英語で日記を書く。最初は「～をした」という「過去形」の文を1, 2文から始めるとよい。慣れてきたら、授業で新しく習った文法を使って文を作ると復習にもなる。書いた文は先生に必ず見てもらおう。
- (4) 長文問題等、チャレンジしたい場合は先生に言う。プリントを用意します。
- (5) 英語検定に積極的に挑戦する。自分の実力を知ることができるし、より実践的な英語にふれることができる。英語検定の資格を持っていることで、高校入試や大学入試に有利になるところも多くなってきている。
- (6) テレビニュースの副音声（英語版）を聴いたり、ラジオを聴いたりするのがおすすめ。NHKで基礎英語、英会話などのラジオ番組をやっている。テキストも書店で買うことができる。

ICT 活用編 ～もっと力を付けたい人へ～

週末、持ち帰った Chromebook（またはパソコン等）を使って、「タブレットドリル」や「すららドリル」に取り組み、弱点補強をしてみよう！

さあ、まずは各教科の基礎編から取り組んでみましょう。

このアドバイスは、教科の学習だけでなく、これからあなたたちが生きていく中で「仕事」をするときに、その手順を学んだり、その仕事のために必要な資格を取るための学習をするときに、きっと役立つはずですよ！